

## 慢性腎臓病

北九州市における慢性腎臓病  
(CKD)予防連携システム

## CKDとは

CKD(慢性腎臓病)とは検診や人間ドックでの検尿異常(蛋白尿や尿潜血)や腎臓の働き(GFR)が健康な人の60%以下に低下(eGFRが60ml/分/1.73<sup>2</sup>m未満)することが3ヶ月以上続く状態を言います。年をとると腎機能は低下するため、高齢者ほどCKDが多くなります。また、高血圧、糖尿病、高脂血症、肥満やメタボリックシンドローム、家族に腎臓病の人がいる場合は要注意です。さらにCKDは、心筋梗塞や脳卒中といった心血管疾患の重大な危険因子になると言われています。

## CKDへの対策

CKDは病期によってステージ1〜5に分けられ、早期(ステージ1〜2)には症状はほとんどありませんが、症状が出現する時期(ステージ4〜5、5は透析療法が必要な状態)になると腎機能を回復することが難しくなります。CKDを早期に発見してステージを進行させないことが重要で、腎機能が既に低下した場合に、食事療法や薬物療法によって残された腎機能を長持ちさせることが大切です。

## 北九州市CKD予防連携システム

北九州市では、本年4月より全国に先駆けて国保特定検診におけるCKD予防連携システムを開始しました。これは検尿異常やeGFRの低下といった特定検診の結果に応じて、かかりつけ医と当院のような腎臓専門医が連携して、CKDの進行を予防しようとするものです。CKDのステージに応じて治療方法を選択し、その効果が期待されています。

済生会八幡総合病院

腎センター 部長

医学博士 安永親生